



# ゆりこの市議会だより

発行/後藤ゆり子事務所  
〒020-0807 盛岡市加賀野1丁目17-3  
電話/019-654-2220 FAX/019-654-2231  
携帯/090-2366-1036

第54号  
2022.秋

盛岡市議会議員《盛友会》後藤百合子だより

## ゆりこの盛岡市議会 Q&A

2022(令和4年)  
3月2日  
一般質問(一括)

### ◆生活保護費の不正受給

**Q** ①令和4年2月10日提出であった、市

福祉事務所による「自己検証」(てんまつ書)は不十分。不正受給のホテル代に血税たれ流し、県主管課への報告義務を放棄、ついに厚労省へ不正支給額1、900万円の返還、これも血税か。②不正受給者に支払った住宅扶助費の詳細は。③不正受給者の父を福祉施設へ、夫婦を市営住宅へ入居させれば、解決できた事案では。④「盛岡市危機管理指針」の

運用があれば、不正を防止できたはずだが。

**A** ①国に返還の1、937万円は、R.

3年度3月補正予算、一般財源で。のこり18万円は、R.4年度の3月補正予算で。②生保の開始からアパート強制退去(家賃不払いによる)まで、月額4万円、その後支給の宿泊料総額は、3、178万円。③父の高齢者施設は世帯主(不正受給者)が拒否。市営住宅、民間アパートとも空室なし。④当初、担当部局は危機事案と認識せず、警察の調査により、同費にかかる詐欺の疑いが判明、以降、「盛岡市危機管理指針」を踏まえての対応となった。

### ◆中学校のいじめ



**Q** 保護者による教師や、他の生徒へのパワハラは目にあま

る。学校で「学」の独立はまもられるか。いじめ事案に係る報道もパワハラに寛容、教師に厳格、と偏重では。

**A** ①教委への、いじめに

対する問いあわせ件数は。②「学校いじめ防止等基本方針」は適切に機能か。



### ◆ごみ処理施設の整備

**Q** ①令和3年12月の「県央ブロック

ごみ・し尿処理広域化推進協議会」開催後の進捗よく状況は②予定地域の皆さんへの感謝と、今後の地域発展計画は。

**A** ①地域住民と環境対策、廃棄物

き話し合い。一部事務組合の設立にむけ「焼却処理以外のごみ処理体制」「最終処分」等、自治体間で協議検討。

②心から感謝。施設は市民生活をささえる重要な社会インフラと、市民各自の理解を。廃棄物エネルギー利用で、まちづくり、地域の発展を。

### ◆内丸団地の再整備



**Q** 土地利用のあらたなルールづくりが必要。日影規制、駐車場の附置義務等、規制緩和を。また土地の融通、その仲介を市がになう。

**A** 「内丸地区将来ビジョン」にもとづき、一体的に整備。土地利用のあらたなルールが必要で、ご指摘の論点もふくめ検討する。市は総合調整の役割をになう。

◆女性生存と尊厳

**Q** ①全国的にとりくみを強める、中高生の妊娠相談の実態は。

②女性の尊厳を高めるに不可欠な性教育。実態と医師等によるとりくみは。③先進国中ゆいいつ子宮の図をかけたくない日本女性。義務教育での指導を。④離婚後の養育費不払いへの相談、対策は。⑤虐待、ネグレクトの実態と対策は。⑥子宮頸がん予防ワクチン接種、8年ぶり、積極かんしよう、対する初見は。

**A** ①令和3年6月、「妊娠 SOS 相談」を開設。②第3次盛岡市男女共同参画推進事業にもとづき施策をすすめる。医師等を外部講師としての性教育は、令和2年度、小学校5校、中学校14校、3年度（4年2月末）小4校、中11校。③子宮の図は、教科書に掲載あることから、活用

していききたい。④令和3年度、1月末で相談件数19件、対応は、弁護士、法テラス、「盛岡ファミリー相談室」等、関連機関と連携。⑤令和3年度、1月末で相談件数156件、前年比34件増、対応は「子ども家庭総合支援センター」中心に、発生育防と、早期発見。「盛岡市要保護児童対策地域協議会」の開催。⑥国の厚生科学審議会で安全性を確認、令和3年11月より積極かんしよう。4年度当初予算で措置。



2022(令和4年) 6月13日 一般質問(一括)



◆四十四田ダムのかさ上げ

**Q** ①このほど明らかとなった2Mのか

かさ上げは、ダム崩壊につながるか。②堆砂(たいしゃ)率98%は危険との事態だが、かさ上げせずとも、最先端技術により、ヒ素を含む堆砂を希釈し下流に放出等の策は。③かさ上げ後、なお堆砂率の上昇あつた場合は。④いくら人為をつくしても、自然の猛威に逆らえない瞬間が来る」とうかがつた。その時の市民への指示は。【※注・質問に先だち国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所、片野副所長より、構造的なお話等、うかがいました】

**A**

①現在、かさ上げ実施計画調査段階で、設計諸条件等を調査・検討中と、管理事務所よりお聞きする。②ヒ素を含む堆砂の処理は、掘削(くつさく)せず、堆砂物の移動や流出、ヒ素の溶出等を監視、の管理である。③シミュレーシ

◆市民活動の衰退防止策

**Q** ①NPO法人、市民団体の現況は。

②具体例で、NPO法人「桃源郷づくり岩手県民会議」は、昭和63年(1988年)設立、活動にまい進するも、衰退への危惧をもつ。かかる団体への対策は。③動物公園周辺の市民主導による整備は。④岩山公園整備計画に関連の市民要望への対策は。



**A**

①NPO法人は129法人、平成30年度がピークの142法人。②後継者不足等、課題に対し、コミュニティリーダー研修会等の開催、参画を促進の事例紹介、情報誌による事例紹介など、きめ細かい支援を。③NPO法人桃源郷づくり岩手県民運動によるハナモモの植樹、盛岡東ロータリークラブの後援案内看板の寄付等。④岩山展望台からの眺望確保、トイレ改修、トイレ改修等、計画的におこなつ。

◆生活保護費(生保)不正の解明

**Q** ①令和3年度分の不正支給額、18万円

の国への返済をどうするか。②公務員による「ひとの金だと思つて」の大盤振る舞は、



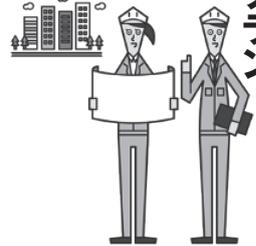


本県のみならず、山口県阿武町の給付金の誤振込等。所見は。③匿名の男性より電話があり「職員は生保受給者は人間としてあつかうなど指導され、対応が冷たい」「病院にいけば、医師、看護師に、まだ受給しているのか。と叱責を受ける」見解は。④真相解明がすすまない。イ・第三者委員会の見解は。ロ・「盛岡市政における公正な職務の執行に関する条例」この履行により、不正防止ができたのでは。

**A** ①18万円は、令和4年度3月補正予算で納付。②公務員は法令等を遵守すべき。③生保は憲法で保障された国民の権利、職員にも指導。

④イ・3者委は時間を要するが、全庁的ガバナンスへ。ロ・同条例は、再周知の必要があり、徹底する。

◆内丸プラン



**Q** 1. 内丸ビジョンについて。①さる3月「内丸ビジョン」の策定あった。同懇話会の各委員は地区の主要事業者であり、同ビジョンにもとづく「(仮称)内丸プラン」の策定まで継続して、尽力願いたい。②内丸プラン作成事業の業務委託を、公募型プロポーザルで、公益財団法人・日本交通計画協会(共同事業体構成員・(株)国際開発コンサルタンツ仙台支店)に決定だが、現況は。同地区の「二団地」の特性の反映は、バスセンター、モナ力等、産業振興すむ河南地区との整合性、協調性は。

**A** ①委員には引きつづきご意見を

いただく予定。②事業者は都市開発、都市基盤整備等の業務、国交省、各自自治体に実績で、内丸の一体的な再整備の検討。期間は令和4年6月1日から、5年3月17日。河南地区のにぎわい商業機能の強化と、内丸の都市中核機能の相乗効果をめざす。

**Q** 新市庁舎について。①3候補地。

イ・内丸は、盛岡藩の昔からの「内丸」、明治の世となり、県庁、ついで市役所が、県都の機能整備が今日に。ロ・盛南は、旧都南村との合併協議で浮上、今日、あらたな都市機能をもつ地域、ていねいな検証、検討を。ハ・盛岡駅西口エリアは、なぜ、そじょう(相上)にあがったか、不明りよう。市の玄関口、交通、コンベンション・エリア。県都の庁舎、土地代がタダだから、との根拠で選定は、汗顔のいたりにここに極まれり。

**A** 今後とも、「市民会議」「有識者懇談会」「(仮称)基本構想策定委員会」等、市民の声をききながら検討を。



◆盛岡城跡の復元について

**Q** ①令和4年度新設なった「盛岡城復元調査推進室」は突然だが、経緯、主旨、目的は。②対する市民の意識調査は。③復元の可否をにぎる、文化庁の意向もふくめ、問題点、課題は。④構造上の問題で、当初予算、2億2、000万円で実施なる、「国指定史跡」三ノ丸北西部の石垣修復工事だが、その上に構造物の整備は、いかがか。専門家の意見によれば、重量物を設置で、史跡指定の解除あり得ること。

復元あっても、盛岡城は名城のカテゴリーにあらずだが。

**A** ①これまで、お城の復元整備につき、発掘調査等おこなったが、復元に結びつかず。令和2年、文化庁の基準が改正、調査手法の再検討で、同室の設置。室において調査、分析、可能性を判断。

②市民の意向調査は、復元等の可能性がみえてから。③復元の根拠、史資料が不足、学術的調査も不足、多角的検証もなし。外部専門家をアドバイザーに委嘱。④石垣は史跡盛岡城跡の中核であり、「保存」が前提で「活用」は、抑制的にあるべき。



# ゆるりこ 突撃レポート

【No.53】



時代をせつげんするDX(デジタル)トランスフォーメーション(デジタルを活用して変革すること)を推進する。それはビジネスモデルの変革です。盛岡市政としていかにやるか、考えなくては。

「コロナ感染症への対応で、世界におくれをとった日本。原因はデジタル政府化の遅れとして、デジタル庁の創設等と、自治体に対し「自治体DX推進計画」を求めました。その最前線に立つ、盛岡市市長公室・企画調整課・都市戦略室、吉田中央室長に、まずはお話をうかがいます。

## 【市のDXを推進する体制】

□ゆるりこ 市のDX推進の体制についてお知らせください。

■吉田室長 まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション(DX)は、市長公室の企画調整課都市戦略室が推進し、行政のDXは、総務部に部局横断の組織であるデジタル推進事務局を設置して推進する体制となっています。

## 【EのまがねのDXとは】

□ゆるりこ 都市戦略室はDXに関してどのような機能を有し、どのように推進をめざす

のでしょうか。

■吉田室長 まちづくりDXは、基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、まちづくりの在り方を変革することで、新たな価値を創出したり、課題解決を図ることが期待されます。本市では、令和4年度中にDXによるまちづくり戦略を策定し、まちづくりの基本的方向を示すとともに、必要なアナログ対応は大事にしつつ、デジタル化による利益を最大限に享受できるよう、デジタル化の取組を着実に進めていく予定としております。

## 【先進自治体のケース】

□ゆるりこ 7月なかば、3年ぶりの行政視察で訪れた前橋市のDX施策です。DXを「デジタル化を手段として変革を進める」と定義して、推進委員会、ワーキンググループ、推進員の体制を組織、すべて住民のため、全職員が活動、あらゆるフォーメーション(行政のあり方)をめざし、見習うべきでは。

■吉田室長 前橋市のDX施策は、DXを明確に定義し、めざす目標を定め、行政分野やまちづくり分野において、積極的にデジタル化へ取り組んでいるものと存じております。本市においては、他自治体の先進事例など情報収集を行いながら、地域活性化や市民の利便性向上を目指し、まちづくりDXを進めてまいります。

行政のDXについて総務部・阿部俊之次長(情報企画課長・デジタル推進事務局)にお話をうかがいます。

## 【市のDX推進計画とは】

□ゆるりこ デジタル推進事務局は行政のDXに関してどのような機能を有し、どのように推進をめざすのでしょうか。

■阿部次長 「デジタル推進事務局」は令和3年度に設置し、事務局と業務を所管する各部課等との連携により、同年9月策定の「盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画」に示した「デジタルのチカラで、市民の多様なライフスタイルに寄り添う、徹底的に便利な市役所の実現」を目指して、行政手続きのオンライン化などの施策について、計画的に行政事務のデジタル化を推進しております。

□ゆるりこ これまでの市のICT利活用の取りくみはどうか、成果はいかがでしょうか。

■阿部次長 令和元年12月に「ICT利活用推進指針」を策定し、市民サービスの利便性向上や行政事務の業務改革など4つの方向性のもとに取組を進めております。成果として、SNS等でのタイムリーな情報発信、AI等の新しい技術を活用した事務の

効率化のほか、今年度進めておられます公民館等へのWi-Fi整備などが挙げられます。

□**ゆりこ** いくらデジタル機材が進化しても、使用する人間の思考力、判断力が進化しなければ無用の長物になりかねないのでは。

■阿部次長 デジタル技術を住民サービスに完全に活用するために、人材育成は重要なポイントと存じております。本市では「全職員がDXに係る基本的な知識やスキルを有している」ことや、「各業務担当課は、ICTを活用した市民サービスや業務改革を企画・実施し、自らDXを推進できること」を目指して、各課の情報化推進リーダーを中心とした職員研修のほか、職員の意識やスキルの現状を踏まえた階層別のアプローチの検討などを進めております。また、同時に外部の専門人材の支援もいただながら、人材育成や業務のデジタル化を進めることとしております。

□**ゆりこ** 推進計画の重点項目2「行政事務のデジタル改革ですが、①デジタル庁の「ガバメントクラウド先行业業」

応募、採択なり、令和3～4年、(株)アイシーエスを協力業者として現行システムの検証、②全庁業務量調査の実施、コニカミノルタ(株)と連携協定し、庁内業務の調査分析等、可能性を期待できそうです。

■阿部次長 国の方針も踏まえ、住民記録や税などの基幹業務に係る情報システムの標準化・共通化に取組んでおりますが、今般の先行业業への採択は、国の整備するクラウド上でのシステム運用ノウハウの蓄積や、標準システム移行に係る検討や作業期間の確保など、本市として大きなメリットがある取組と考えております。また、全庁業務量調査につきましても、民間事業者のノウハウを活用して行政事務のデジタル化を進める基礎資料となる全庁的な業務フローや業務量を可視化することができたものと考えており、分析結果を生かして、デジタル技術の活用や業務見直しを含めた事務の省力化・効率化に取組み、市民視点の利便性向上を図ってまいります。

「さる8月17日、新聞報道が「盛岡スマート都市化へ本腰」との報道があり、まちづくりのDXの具体的な取組として内閣府のIT活用の事業選定をうけました。商工労働部・ものづくり推進課、佐藤武志課長にお話をうかがいます。」



### 「スマート都市化へ」

□**ゆりこ** 朗報をうかがいましたが、これに応募なさった経緯と、選定を得た理由についてお知らせください。

■佐藤課長 スマートシティ関連事業へ応募した経緯ですが、盛岡市は昨年度「IT産業振興戦略」を策定し、「AI・IoTプラットフォーム事業」として、デジタル技術実証実験補助事業やセミナー開催などの取組を開始いたしました。これらの取組を国の支援を受けながら、さらに発展させるため応募いたしました。

選定を得た理由は、これらの取組が内閣府の目指す地方創生の姿「デジタルを地方に行き渡らせ人口減少を止める。」と合致したためと考えています。国も、このような活動を展開したいと考えています。

□**ゆりこ** 内閣府の未来技術社会実装事業に選定の「マルチ・モノ・モリオカ」7事業の主要部分につき、お知らせください。

■佐藤課長 「デジタル技術を活用したスマートストア事業」は、地場産品等の情報や商品を展示し、在庫は置かずECサイトでの購入を促すものです。また、AIカメラで来店者の行動を分析しマーケティングに活用します。オンラインと現実を融合させた店舗です。(案内役を置く予定とのこと。)

「自動運転EVで城跡を巡る「MorioKart」 走行デモ」は、自動運転EV(電気自動車)で盛岡城跡の石垣を巡る走行を公開し、5G通信を介し歴史的映像や季節映像を見せる新たな観光交通システムの実現可能性を探るものです。

「ITを活用した地域医薬連携モデル化事業」は、ウェアラブル端末とお薬手帳データを

活用して、薬の多剤服用による副作用等を見守るものです。

【チャバタケdoorsメタバース事業】は、メタバース(デジタル上の仮想空間)を活用して各種講座を開催し、講師と生徒をマッチングさせるものです。

【通信及びIoT技術を用いたリモートメンテナンス活用による工場内生産工程の改善事業】は、工場内に通信網を設置し、各生産工程で生じる不具合や異常を遠隔地でリアルタイムに検知し、対応の迅速化を図るものです。

【ドローン×映像解析AIによる橋梁点検の効率化】は、これまで足場を組んで行っていた橋の下の方点検を、ドローン搭載のカメラ映像を用いて効率的に解析を行うものです。

【ゆりこ これら事業展開により、市の経済、産業発展にどのような「トランスフォーメーション」が生ずると、お考えでしょうか。】

■佐藤課長 新しい技術やビジネスにチャレンジする方が増えることにより、既存産業の高付加価値化が推進されるとともに、若者が魅力を感じる事業の創出により、今後深刻化する人材不足に備え、理

工系人材の地元定着が促進されるものと考えています。

【ゆりこ 事業の成功のための最大の課題は、なんだとお考えですか。】

■佐藤課長 本取組に掲げる未来技術を、事業者がビジネスとして展開できるかが課題です。盛岡市は、未来技術を活用した高付加価値なビジネスが創出される地域と認識されるよう、事業を推進して参ります。

### 【最後に】

【ゆりこ DX、果たして実現するか。盛岡市政の真価が問われることです。まちづくり、行政改革ともに。市民の信頼を失いかねない、最近の具体例で、領収済み市・県民税申告書の未処理、児童手当・特別給付金の手当額の認定あやまり等、防止できるか。致命的には、解明不足と酷評の「生活保護費不正受給事件」クレームにわざわざ、月額45万円にのぼる住宅扶助を6年半の長期にわたり、抛出しつづけた、盛岡市福祉事務所の大不祥事、見抜けぬ、ふせげぬ、従前のデジタルフォーメーション、絶対にトランス(別の状態に変革)しなければ。

## ゆりこの かけこみ相談室

Q 世はあけて、DX時代となりました。若者がスマートフォン(スマホ)を便利に、使いこなしている姿を、うらやましく思います。昨今は、自治体によるスマホ教室があり、高齢者が多く受講とききます。盛岡市の場合、どのようなおこなっておられるのでしょうか。また、スマホを利用しておこなうことができる、行政手続きはあるのでしょうか。(F子)

A 市では、行政のデジタル化推進の一環として、令和3年度から携帯通信事業者と連携して、主に高齢者を対象にした無料の「スマートフォン利用講習」を開催しております。令和4年度は、10月～12月の間で、中央公民館など5つの公民館において、基本的な操作、電話のかけ方、メールの送受信、カメラの使い方、地図アプリの使い方、インターネット検索やSNS(LINE)の使い方など、よく使用される機能について操作研修を開催する予定です。募集は、広報もりおかなどを通じて行いますので、この機会に、ぜひ参加のご検討をお願いします。また、スマートフォンからできる手続きとしまして、図書館の本の予約などがありますほか、令和4年度中には、介護保険被保険者証の再交付申請など介護関係手続きなどのオンライン化を進めております(手続きによつては、マイナンバーカードが必要となります)。

「盛岡市総務部次長兼情報企画課長 阿部 俊之」

市政だより、「ゆりこの議会だより」は、政務活動費で作成しています。